

セミナーのお知らせ

「奇跡のリンゴと葉のマイクロバイオーム」

杉山 修一 先生

弘前大学農学生命科学部教授

日時：2016年6月1日（水）16：00～17：15

場所：名古屋大学 理学部 A 館 2 階 A222 講義室

リンゴは病気や害虫の被害が大きいため、無農薬での栽培は不可能と言われてきた。特に、リンゴの褐斑病は感染すると落葉を引き起こすため無農薬栽培の最も大きな障害となっている。「奇跡のリンゴ」で有名な弘前市の木村秋則氏は無農薬でのリンゴ栽培に成功し、現在でも毎年慣行栽培並みの収量をあげている。木村氏のリンゴ園は、病気には感染するが、病気が葉全体に広がらずに被害が大きくならないところに特徴がある。自然群集では植物表面や組織内に棲む微生物叢（マイクロバイオーム）が病気を抑える可能性が指摘されている。そこで、東北地方の無農薬栽培を行っている 8 リンゴ園を比較し、葉のマイクロバイオームの構成と褐斑病による落葉率の関係を調べた。その結果、リンゴの葉のマイクロバイオームと落葉率は密接に関係しており、特にいくつかの微生物種が褐斑病の抑制に関係していることが分かってきた。

世話人：杉田 護 (sugita@gene.nagoya-u.ac.jp, 内線 3080)